

## 共同生活援助 グループホーム清久 事業報告

平成 28 年度事業計画に基づき、以下のとおり事業を運営しました。

今年度は新たに 1 ホーム（うちやホーム定員 5 名、短期入所 1 名含む）を設置し、9 ホーム、総定員 45 名で運営しました。

### 1 定員の充足

- ・以前よりグループホームの入居を希望していた一般就労している男性 2 名がグループホーム体験利用を経て、新たに入居しました。
- ・老朽化している賃貸物件の改築を視野に入れ、定員充足せずに空き居室を設け、改築中に入居者が仮住いできるようにしました。空き居室は、地域のさまざまなニーズに応え、体験利用や短期入所の居室として活用しました。
- ・現在の入居者の状況は以下の通りです。

#### < 定員内訳 >

ホーム名	清久	上清久	ハイツ 清久	のざわら	仁丁町	こがらい	おぎそね	こすもす	うちや
定員	7 名	4 名	4 名	3 名	4 名	7 名	7 名	4 名	4 名 短期 1 名

#### < 男女比・年齢構成 >

	19 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	合計
男性	4	6	6	2	3	5	26
女性	0	0	3	3	5	2	13

#### < 平均年齢 >

	平均年齢（男女別）	平均年齢（全体）
男性	48.4 歳	51.9 歳
女性	59 歳	

#### < 障害支援区分・総合判定・年金等級 >

	障害支援区分					総合判定				年金等級		
	6	5	4	3	2	㊤	A	B	C	1	2	未
男性	3	5	10	3	5	1	8	14	3	4	19	3
女性	0	5	4	4	0	1	8	3	1	5	7	1
計	3	10	14	7	5	2	16	17	4	9	26	4

<日中活動場所>

○就労

会社名	仕事内容	人数
(株)なとり	食品加工・荷物運び	2人
(株)ウィズウェイトジャパン	リサイクル選別	2人
(有)高野産業	配送補助	1人
松勘工業(株)	武道具生産	1人
(福)久喜けいわ	洗濯・清掃・入浴補助	2人
(株)ネアス	クリーニング・掃除	1人
(株)流通サービス	物流・箱出し	1人
(株)吉野家ホールディングス	食肉加工	1人
アイワイフーズ(株)	食品製造	1人

○福祉事業所

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	4人
久喜けいわ	就労継続 B 型	16人
久喜けいわ	就労移行	1人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続 B 型	1人
宮代町 ひまわりの家	生活介護	1人
白岡市 めぐみの里	就労継続 B 型	1人
久喜市 偕楽荘	デイサービス	1人(久喜けいわと併用利用)

2 支援体制の整備

- ・昨年度と同様の職員数で入居者への支援にあたりました。職員募集は難しく、課題となっています。
- ・入居者への日常生活の支援や余暇活動の充実が図れるように、世話人と生活支援員がチームを組んで協力支援を行いました。

3 地域生活者としての自立支援

- ・金銭管理については、自らが計画的にお金を使えるよう出納帳を活用し、日々の買い物等の実践を繰り返し体験することで、収支の流れを理解できるように努めました。予定外のものを購入し、使いすぎてしまうこともあります。失敗することで学ぶことも多く、少しずつ計画通りお金が使えるようになってきています。
- ・「あじさいの会」の開催は、入居者が増えたことで、全ホームでの定期的な開催が難しくなりました。会を楽しみにしている入居者も多く、開催方法について検討中です。
- ・昨年に続き、単身生活を望む入居者の為に、サテライト型住居を設置する予定でしたが、近隣に賃貸のアパートが見つからず実現しませんでした。日々の生活の中で一人暮らしを想定した支援を行うようにしました。

#### 4 地域社会活動への積極的な参加

- ・地域住民の一員としての役割として、地区の清掃や草むしり、ゴミ当番、きよく大運動会のテント設営、地域行事準備等を手伝いました。
- ・「清久婦人会」に4名の入居者が会員として、地域活動や交流会、地域行事の手伝い等に参加しました。女性1名は、日帰り旅行に参加させてもらいました。

#### 5 医師、看護師、栄養士と連携した健康管理の充実

- ・年に1回、就労先や啓和会が行う健康診断を受けました。有所見者に対しては、嘱託医に相談し必要に応じて病院に受診しました。
- ・健康状況の把握は毎日各ホームにて行いました。日頃より、手洗い・うがいの実施と希望者にはインフルエンザの予防接種を実施し、感染予防に努めました。5名インフルエンザに感染しました。すぐに受診、薬の服用、静養のおかげで大事には至りませんでした。
- ・生活習慣病の予防として、必要に応じて管理栄養士に食事相談をし、アドバイスを参考にバランスの良い食事を提供しました。

#### 6 自主的な余暇の充実

- ・地域行事には積極的に参加し、地域の人と交流しながら楽しむことができました。
- ・入居者の要望から、バーベキューや映画鑑賞やコンサート、1泊旅行に出かけ、楽しむことができました。
- ・久喜市フレンドシップ学級やみんなの会に参加しさまざまな経験を通し、たくさんの人と交流ができました。また、マラソンクラブでは、今年も東京マラソンに男性2名が参加し、完走することができました。音楽クラブでは、さまざまな発表会でのたくさんの方の前の演奏は、何とも言えない緊張感を味わうことができました。

#### 7 関係機関との連携

- ・支援センターと連携し、圏域内の在宅障害者に対して、体験利用や短期入所を積極的に受け入れました。
- ・ホームから単身生活した人への相談や訪問等を支援センターと協力して支援しました。
- ・70歳以上の日中活動や健康に課題がある入居者2名に対して要介護認定、高齢者施設の利用申請を行いました。現在、78歳の男性が週に2日、デイサービスを利用しており、高齢者施設の職員やケアマネージャーと協力して支援しました。

#### 8 家族との関係

- ・サービス内容の説明や手続き等について、職員が家族と連絡を取り合いました。本人からは、手紙や電話などで近況について家族に連絡が取れるように支援しました。
- ・成年後見制度に関しては、39名中7名が利用しています。今後、2名が手続きをする予定です。

## 9 危機管理の徹底

- ・日頃より、入居者へ火災の恐ろしさを伝え、火災予防に努めました。
- ・各ホームで危険箇所の点検と老朽箇所のメンテナンスを定期的に行い、必要箇所は早急に修繕をしました。
- ・久喜消防署立会いの下、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行いました。また、久喜市総合防災訓練や地区の防災訓練には必ず参加し、消火訓練や炊き出し訓練を行いました。実践を通し、入居者と職員の防災に対する意識を高められるように努めました。
- ・交通安全について、通勤や外出で危険個所の確認を行い、交通ルールの再確認を行いました。
- ・携帯電話を使用している入居者に対して、助言を行いました。日頃から信頼関係の構築に努め、何かあれば相談しやすい環境を整えています。

## 10 人材育成

- ・虐待防止研修に多くの職員が参加しました。権利擁護への知識や意識を高め、日々の支援の振り返り、入居者へのサービスの質の向上に努めました。

### ○研修実績

#### (外部研修)

研修名	主催	日時	場所	参加者
関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	関東地区知的障害者福祉協会 埼玉県発達障害福祉協会	7/14 15	ソニックシティ・パレスホテル	金子 相馬 高垣
サービス担当者責任者等指導者養成研修	厚生労働省	9/14 15 16	国立リハビリセンター	金子
青年部会研修	埼玉県発達障害福祉協会	9/21	すこやかプラザ	相馬
感染症研修	埼玉県社会福祉協議会	11/17	アスカル幸手	高橋朋
青年部会研修	埼玉県発達障害福祉協会	11/21	すこやかプラザ	相馬
地域生活支援部会世話人研修	埼玉県発達障害福祉協会	2/13	すこやかプラザ	相馬 清水 山本 竜野 佐藤洋

- ・サービス管理責任者(地域生活)の資格を2名(高垣 矢治)が取得しました。

#### (内部研修)

研修名	内容	日時	場所	参加者
理事長講話	啓和会の成り立ちについて	2/13	久喜けいわ機能訓練棟	高瀬 相馬 矢治 大塚 齋藤暁
安全運転研修	安全運転の啓発	11/1	ふれあいセンター	齋藤弘 井 上 竜野他
介護技術研修	介護の仕方について	1/18	久喜けいわ機能訓練棟	金子 高瀬 齋藤暁

虐待防止研修	『虐待・不適切な関わりとは何か?』、『援助者の怒りのセルフコントロール』	3/10	久喜けいわ機能訓練棟	金子 高瀬 高垣 佐々木 齋藤 暁
久喜市歯科保健事業研修	口腔衛生について	3/18	ふれあいセンター	高瀬 高垣 相馬

## 重点項目の達成状況

- 1 新たなグループホームの開設と新入居者の受け入れ
  - ・グループホームうちやは平成 29 年 4 月に無事に開設し、新しい生活が始まりました。新たな土地での生活となりましたが、地域行事に誘ってくれる等、地域の方が温かく迎え入れてくれ、すぐになじむことができました。
  - ・新たな事業として短期入所を行いました。ほぼ毎日利用がありました。
  
- 2 老朽化している賃貸物件の将来について
  - ・グループホーム仁丁町の建て替えについて、引き続き、家主と法人本部と話し合いをしました。建て替えについて前向きに進んでいます。
  
- 3 防災体制の強化、緊急時の避難体制
  - ・消防署立ち合いの下、ホームで消火訓練、通報訓練、避難訓練を行い、その他、地区の防災訓練等(67 区、73 区、おぎそね区)に積極的に参加しました。各ホームで顔を覚えてもらえるように、日頃から近所付き合いを大切にしました。
  - ・夜間、毎日ホームの巡回を行い、火の元の確認を徹底しました。
  
- 4 高齢者及び医療的ケアが必要とされる入居者に対する支援
  - ・入居者の健康状態を知るために、日々のバイタルチェックを継続しました。病気などの早期発見と早期対応ができました。
  - ・高齢化に伴い、生活習慣病のある入居者が増えてきています。食事や運動について本人と話し合い、入居者、職員ともに健康に関する意識が向上するように努めました。
  
- 5 個別支援計画の作成に係る一連の業務の再確認
  - ・PDCA サイクルに基づき、アセスメント、個別支援計画作成会議、プラン作成、プラン実施、モニタリングを行いました。特に、個別支援計画作成会議を実施し、利用者の要望、ニーズ、目標、支援内容等を職員全体で共有できたことは効果的でした。